

A. 安静が大切 再発することも

Q. 足などに結節性紅斑

娘が左膝と右足に痛みが出て、結節性紅斑と診断されました。ふくらはぎにもしこりができ、1カ月以上治らず、心配です。
(大阪府、女性、88歳)



答える人
大島昇院長
浪谷駅前
おおしま皮膚科
(皮膚科)

結節性紅斑は皮下脂肪に炎症が起き、2、3センチほどの赤色のしこり(結節)が足や腕にできる病気です。触ると痛く、発熱や倦怠感、関節痛などの全身症状を伴うこともあります。20、30代の若い女性に多くみられます。

患者の半数以上は原因がはっきりしないですが、溶連菌などの細菌やウイルスによる感染がきっかけとなることもあります。抗生物質や経口避妊薬など薬による発症や、白血病やリンパ腫、悪性大腸炎やヘーチェット病といった難病が原因の可能性もあります。結核によるバザン型結核性紅斑など似た病気もあり、病理検査で区別します。ただ、相談者の場合のように病理検査で結節性紅斑であることが分かっていても、他の病気が原因の場合には血液検査など別の検査で調べることが必要です。

通常は2週間から1カ月で消えますが、再発することもあります。横になって、クッションなどの上に足を乗せて安静にすることが大切です。治療薬としては炎症を抑える非ステロイド性抗炎症薬などの薬を使うことが多いです。治らない場合はステロイド剤を内服したり、全身症状がひどいと入院を検討したりすることもあります。相談者は膝やふくらはぎにもしこりができたということなので、もう一度皮膚科専門医がいる病院で診てもらった方がいいかもしれません。

【聞き手・林奈緒美】

体の悩みや症状に関する相談を募集します。氏名、年齢、電話番号を明記してください。回答は紙面に限り、個別のお問い合わせは受けられません。

☑ 取り上げてほしい話題やテーマをお寄せください。郵便は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞くらしナビ「くらし」係へ。メールはkurashi@mainichi.co.jpへ